

【クライテリア】

■ 1、経済的・社会的・環境的要因の関係性考慮（説明）

- ① 経済的要因 ⇒ ●売れなければ、どれほど最高の品や文化も簡単に絶滅してしまいます。
- ② 社会的要因 ⇒ ●生活様式の変化と、祖父母別居で子や孫への伝承不足も。
- ③ 環境的要因 ⇒ ●日本文化は本来、千年以上使う事を考え作り、良い品を大切に長く使う非常にエコな文化。

■ 2、対象者への効果的エンパワーメント(受益者選択権)

- ④ ターゲットとの共同アプローチ ⇒ ●一緒に考え、共に活動しています。
- ⑤ 意義ある知識・スキルを対象者に与える ⇒ ●例:茶筌師にあるべき商品像と販売方法を教えた等。
- ⑥ 長期的成功へ必要な行動の個人能力開発 ⇒ ●高齢者でも日常にあった手法を提示し、無理のない実行可能に。
- ⑦ 長期的エンパワーメント問題解決法 ⇒ ●事業初期から出来るだけ両者を直接繋ぎ、持続可能な体制を構築。

■ 3、対象者は課題を持っているか

- ⑧ ニーズ・アセスメント(需要評価) ⇒ ●対象者を十分確認し、実行開始している
- ⑨ プロジェクトのニーズ対応 ⇒ ●市場を十分確認し、実行開始している

■ 4、ビジネスと経済コンセプトを用いた起業家的アプローチ

- ⑩ ビジネス&経済コンセプト使用 ⇒ ●企業の戦略的アプローチや手法を駆使している。
- ⑪ 起業家的アプローチをしているか ⇒ ●市場に存在しない新切り口の商品開発をしている。

■ 5、プロジェクトの効用で「生活の質」と「生活水準」を向上させたか

- ⑫ 適切&効果的の評価方法か ⇒ ●公的な評価基準の影響者数を採用。対象者からの感想コメント多数。
- ⑬ 量的な結果か ⇒ ●影響者数：直接330人、間接2400万人へ影響。
- ⑭ 質的効果か ⇒ ●本物志向の普及、皇室からの認定。
- ⑮ 生活に好影響、成果が変化か ⇒ ●物を大切に扱うようになり、日本文化を誇れるようになった。
- ⑯ 成功の範囲拡大・継続土台か ⇒ ●持続可能なシステムにするため初期から直接繋ぎ運営している

大学関連ご紹介

New Order —ポスト・ジョブズ時代の新ルール—

『エンジニアtype』が創刊1周年を記念して贈る特別企画。ステイブ・ジョブズが遺したイノベーションを進化させ、新しいスタンダードを生むために乗り越えるべき壁とは何か？ 新たな価値創造にのぞむ各界の人物10人が、時代の新ルールについて語る。一日一人ずつ、連続10日間更新される豪華者たちのビジョンを前に、あなたはどうか動く？



6
Tomotaka Takahashi
高橋智隆氏

ロボットのクリエイター
株式会社ロボ・ガレッジ 代表取締役社長 東京大学先端研特任准教授
高橋智隆氏
1976年生まれ。2000年京都大学工学部卒業と同時に「ロボ・ガレッジ」を創業し、京大校内入居ベンチャー第一号となる。代表作品「ロボット」は、『ロボット』、『Gabb』、『オチコ』など、ロボカップ世界大会6年連続優勝。米TIME誌2004年の発明「ネビュラ」に「未来を変える38人」に選定。エボル列によるワンハンドキネシオン装置、ルアン24時間待機対応の「ロボ」システムを世界に紹介。現在、ロボ・ガレッジ代表取締役、東京大学先端研特任准教授、龍谷大学／大阪電気通信大学客員教授、ヒューマンキッズサイエンスロボット教室顧問。著書に「ロボットの天才」(Gデジアファクトリー)ほか

【出典】高橋 http://engineer.typemag.jp/article/new_order_06、ロボ <http://plaza.rakuten.co.jp/point45/diary/200805060000/>、山中教授 http://www.kyodoco.jp/photo-news/2012-12-11_73941/
京大ホームページより：元研究委員アウンサンスーチー氏、経営管理大学院経営センター長小林教授／



2013 0705 5st

Kyoto University

International Business Studying Society

E-mail : kyoto-u.sife@live.jp

■ member:

- X, LIU
- N, MATSUMOTO
- M, OI
- A, KAWASHIMA
- S, FUSHIKI
- ISHIBASHI, sg

【絶滅危惧】

日本最高峰の伝統文化
を守るプロジェクト！

■ Technical guidance persons:

w.Style /World Style & Company, Limited.

Tsuchida-ke

書院ご協力：慶雲館/長浜・滋賀

Formal & traditional Japanese culture
Japan Style



茶や音楽を嗜まれる
日本最高峰の紳士と最高峰浜縮緬

【絶滅危惧】日本最高峰の伝統文化を守るプロジェクト！

世界で必須 日本最高峰伝統文化 日本最高峰の食文化・茶の湯 我々の願い



当会は世界のトップにコミットするため、母国文化に通ずる必須、同業茶研で文化も研修しています。茶の湯に関する文化は、和歌・能楽・社・建築・各種工芸・和装・料理・菓子等々、日本最高峰文化のひとつを今も守っています。日本食文化の最高峰・京都の茶懐石老舗では、ゲストを迎える為、芽葉層根の数等を数百万かけて手入れし、17世紀等の稀少な食器を料理・ゲストに合わせて使い、茶花を育て、床の間に歴史的掛物を飾り、季節にあった歳時記のしらべの上で、お料理を用意します。女将は日本髪にきらびやかな着物で身なりを整え、和紙の巻紙に毛筆の礼状を欠かぬ日本人ならではの心があります。「茶の湯」は、日本の伝統文化はとどろく、**総合的な日本の教養で日本最高峰の食文化**とも言えます。

日本の歴史の企業トップが茶をたしなむ以外に、外務省外交官や国際企業の海外戦略でも使われ、NYハリー・ウィンストンやシリコンバレーORACLE社長、ロックフェラー氏等は、アメリカに大きな茶室を持ち、フランス前大統領も正産をし、見事な客ぶりを披露。今の時代海外セレブも日本文化に精通しています。1回生が参加するこの夏の欧州外交でも、伝統文化が最重要テーマとなっています。enactusワールドカップ会場アメリカ首都ワシントンでも、会場や街で、日本**Kimono**の正式礼装は多くの方から好評でした。特に世界中から来訪者ある米国立博物館の常設展示室には「日本の振袖」を着た欧米貴婦人の巨大絵画があり、日本の着物に対する見識は高いものです。海外一流人との交流では、英語が堪能通年のあるより、母国を愛し、文化をよく理解しているかが「尊敬し信頼でき得る人物か」どうかの判断基準となります。その事から「絶滅危惧・日本最高峰の伝統文化を守るプロジェクト」を蕭々々に続け、点と点を線に、線を面にと繋ぎ、国内外多くの方々に役立てられますようにと願ってやみません。

宇治・茶業周辺開発

仏の偉大なワインの香り・抗癌作用ある
利休より日本最高峰の抹茶製法「本躰」と



東日本大震災後、余震がある中、石巻最大避難所へ、お茶でほっこりして頂きたいといいましたが、抹茶のリラックス効果で、ちびっ子とお年寄りの荒れた心が落ち着き、笑顔が戻った事は驚きました。抹茶は、軽量で常温長期保存でき、血中脂肪の野菜に代わり最高で必須の非常食でした。その、お茶の抗がん作用や排出作用を利用し、ちびっ子の内部被曝を少しでも軽減したく、堀場製作所様から個人向け測定器をご高配頂きました。

日本最古の喫茶録は815年、源氏物語の舞台にもなった宇治では、天皇の為に13世紀から茶園が造られ貴族らに流行。18世紀末頃まで長く、日本でセレブの「茶」とは抹茶でした。その抹茶製法「覆下栽培」は15世紀の宇治で発明され、以後、この利休も愛した高級抹茶の製法は、13世紀足利時代より19世紀明治頃まで全国でも宇治御のみで許された特産物でした。利休も愛した王道の極上抹茶は「藁を使った本躰栽培法」。現在は絶滅寸前ですが、心血注がれ造られた歴史的製法の抹茶は、フランスの偉大なワインのように、蕾や木々など芳醇な自然アロマたっぷりの極上の香気を持ちます。2012年から、秋番茶でも抹茶と呼べる定義拡大変更により、2013年から抹茶産量まで日本一でなくなり、今でも宇治御が命がけで守っている本躰茶こそ、世界に誇れる日本の歴史的な真実の「抹茶」です。今でもお家様など歴史ある旧家で宇治抹茶がギフトに使われます。利休時代からのお茶師である「お茶のかんばやし」38 宇治最高級のお茶は、茶の新芽が出る頃に日光を遮り、茶の葉を赤か「育てる「覆下製法」で、「本躰栽培」で化学繊維の「寒冷紗栽培」に二分されます。現在栽培のほとんどは簡易な寒冷紗栽培ですが、茶葉コンテストで入賞するのは、ほぼ本躰栽培の茶の為、コンテスト用に少量だけ「本躰栽培」し、出品する業者さんが一般的です。その「本躰栽培」は、オリンピックのように株上から琵琶湖産の茶葉に葉を置く、非常に危険な重労働ですが、雨が降ると、雨粒は蕾とよす。木々など、自然な香りをいっぱい含んで茶葉に落ち、フランスの偉大な最高級ワイン「グランクリュ」のような極上の香りと風味を茶葉に与えます。この本躰栽培で作られた茶は、日本茶の最高峰、茶の湯を支える日本食文化を体現するものとも言えます。

【活動】

●共同商品開発と販促：『宇治御最後の本躰農家さんの茶を使った「本躰抹茶パフェ」>(天然の植物繊維・コラーゲン・カルシウムもたっぷり!)を開発、宇治の「スイーツコンテスト」に訴求し、全国102点中から、鏝塚(よろいづか)パティシエにより「プラチナ賞」を受賞、作品は**京都新聞及び京都放送**などで多くの方々で紹介される。

●覚書を発案し、交換する：お茶だけでは集客力が足りなく、ほかのビジネスとの相乗効果を高めることで、茶業さんにお役に立ちたいと観光メニューを開発、コンテンツ開発。
・「高級玉露園」⇒新茶の茶摘み体験と茶摘み娘
・「国際交流基金・日中交流HP(インタビュー掲載予定)
・「老舗茶問屋」⇒家宝「茶古文書茶臼挽き体験
・「旅館」茶の湯メニュー開発⇒サイト紹介

エジソンが選んだ世界最強の日本の竹 奈良県・鷹山茶釜 茶釜形合格おまもり「おちやせん」



彫らんだ横加な日本製茶釜は、室町17世紀に徳吉の祖「村田珠光」依り、奈良県鷹山で開発された**日本の発明品**です。エジソンが19世紀に電球を発明した時、世界で一番耐久性がある素材は「日本・京都の真竹(マケ)」。でした。茶釜に於いて日本産と外国産では、固さの方が約10倍ほど長持ちします(京大茶の湯文化研究会調べ)が、特に、芽葉層根の固く100年以上経たれ、硬く強くなった天竹素材**「本物の徳吉茶釜」**は、超希少高級品ですが、本当に強いものです。現在、2千円位までの激安茶釜は、海外の竹を日本で加工している「日本産」と言え、本物の日本産竹を使用した茶釜はほぼありません。高山茶釜伝統工芸師会会長は、どれほど需要が少なくなっても「茶釜の品質を守りたい」と日本の良い竹を使い続けていってほしいです。

【課題】
●産地偽装や国産竹を使わない茶釜師が増え、良い品を適正価格で買っていたくない、死活問題。【スキルを伝える/茶釜を親しむを。日本の竹の良さや、奈良・高山の茶釜を知ってもらおう】
●説作「おちやせん」(御守)に、神力付守をお教える⇒古格社様へ、新願・商取引依頼⇒成約・実行【ビジネスのブランディング戦略】
●**原価を割る6500円でも高いと言われたら⇒約1200円、上代1800円、3倍近い適正価格で早期売**
【起業家の訴求】地域と地域を繋ぎ、全国への訴求も。茶の最高峰「宇治」と、茶釜の最高峰「高山」
●地域を超えた訴求で、マスコミ各社で紹介可 (総発行部数・視聴者等：約2400万)

<掲載・紹介> 新聞・web

城南新報
洛南タイムズ
奈良日日新聞
奈良新聞
京都新聞
京都大学EXPRESS
共同通信net
日本経済新聞
福井新聞
NHK (TV)
取材：毎日新聞、FMラジオ放送

影響を与えた人数概算：約2400万人

【結果】

★売完と、新規属性顧客開発
茶の湯に興味のない、幼稚園受験の20代お母さんや、お孫さんへというお年寄りまで、全国からご注文やご来社を頂きました。

★宇治縣社は受験の神として認知され、奈良茶釜師さんは、茶釜師が多い中で本物茶釜を守ってこ

世界シェア8割であった被災地日本の絹 福島蚕糸の着物を着よう!



京都へ避難していらっしゃる福島のお年寄りは、地元で帰りたいというお気持ちがあるが、働ける場所がないと痛感し、お年寄りが誇りを持って働け、我々がお役に立つ事を考えた結果、福島の歴史産業「日本の絹」が絶滅危機である事に誇り着き、マスコミ2社に向け記者発表を行いました。当会は元々「茶の湯プロジェクト」で『日本の絹を守り被災地支援のため』国産の着物を着ていました。が、「日本の絹」マークで売られている99%以上の着物は海外産関係等であり、国内産は10%をほとんど占めている地産地消産と分かりました。

妻は古事記に記述あり、養蚕は5世紀雄略天皇から、皇后手づから養蚕を励みとされ、6世紀崇峻天皇皇后により**絹**に伝えられました。以来、養蚕は、天皇の絹作りに対し、皇后や貴族女子に傳われ、その伝統は孝明天皇妃から、現在でも美智子皇后陛下によって守られている、日本皇室の伝統。

江戸末期、海外貿易のほとんどが絹関連の中、ドブシヤは奥州で、**日本は長・英・仏・伊のヨーロッパ等へ、世界の絹需要の80%を輸出する世界一の絹大国**でした。世界に誇るべき養蚕を守り、福島の方の心の支えにして頂きたい、支援ではなく「協同プロジェクト」。現在「日本の絹」表示の99%以上は海外産の絹糸を使用していたものです。福島の少数養蚕農家は今も絶滅の危機にあり、その中、養蚕農家さんで作った現存最古の製糸工場は、雲知高野農家を守るための命を食いつけて働いています。でも売れなければ、農家さんが生産しても先に工場がつぶれてしまう...
<妻から生地になるまで> 蚕⇒繭⇒繭の糸⇒製糸工場⇒糸⇒織り工場⇒糸織り⇒絹糸を通す⇒繰糸機⇒繰糸機⇒繰糸機⇒繭から洗濯ばさみつかられ⇒浴流⇒笑顔の文字⇒干す⇒おじいさんが縫う⇒ローラーアイロン⇒最終チェック⇒合点はんこ⇒織り工場へ戻す⇒織り工場から出荷⇒京都の白生地問屋さんへ⇒地方問屋⇒着物会社へ。これが白生地の段階の最終地点です。
①福島蚕糸100%着物生地を京都中の白生地問屋に問合せ⇒福島蚕糸100%の着物生地はない⇒ないなら自分たちで作ろう!
②養蚕農家の現存最古製糸工場に聞く(⇒糸もない⇒ないなら作り⇒1kg単位から出荷頂ける事に!(100%の福島蚕糸の誕生!))
③日本二大着物産地、京都丹後・滋賀浜瀬編織へ一軒一軒電話し⇒一反から織って頂くことが可能となる!(福島蚕糸の誕生!))
④発売所：営業活動を継続し、数軒の取次ぎ店舗を確認、福島の老舗繊維物産店、30kgの発送頂く!
⑤生地発注の商品販売先を探す：羽二重白製糸の営業活動に奔走し、セラブ着物下着シェア日本一の京都最古の和装店「えり正」様これにより私たちは素材開発、商品開発、流通開発、営業開発、販売促進を調整し、手を離しても持続可能な仕組みに!
⑥和装以外の商品開発：福島産絹羽二重生地が、ヨーロッパセラブの好むイタリア最高級のリネン生地にもつくりこむことを発見!高級オーガニックシャツとしても訴求。「シルクxプロテインxシャツ&ブラウスプロジェクト(Spb)」として、全面に美容効果流の着いたデトックス効果のシャツを、オーダーによって販売するもので、基本デザイン他、ヨーロッパ有名ブランドのクリエイティブデザイン、ウェディングドレスなどを、アメリカ新聞社や、ヨーロッパ系富裕層用のマスコミに訴求しました。

【活動実績】マスコミ：福島民友様、群馬・上毛新聞社、福島蚕糸販売30kg(福島最古(株)丸織物様)



【福島産産ライスバウム by kirari】

福島産繭100%の絹糸